

人と企業とNPOをつなぐ市民情報紙
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おっみネット

●発行日 / 2013年7月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

移住したい人と
地域の人をつなぎたい

交流

結びめ



2

NPOのIT活用術
NPO法人しがNPOセンター



6

世間よし / 企業の社会貢献
近畿環境保全株式会社

5

「まちの魅力を見つめ直す」
「アートでひらくまちづくり」

特集★OHMI視点

①



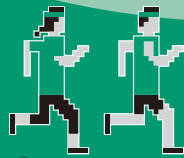
元気印 NPO ③

いつでも・どこでも
だれもが楽しめる

スポーツ

こうかサスケくらぶ

6



元気印 NPO ④

障がいを持つ子どもたちの
生活の場をつくる

障がい者支援

特定非営利活動法人
障害者の就労と余暇を考える会

メロディー

4

「アート」でつくるまちづくり

「まちの魅力を見つめ直す」

「アート＝芸術」と聞いただけで、何だか苦手意識を感じる方も多いのではないのでしょうか。しかし今、この「アート」を手法としたまちづくりが全国に広がっています。地域にある資源を使って、「アーティストが作品を創る」、または「住民自ら創る」、そしてまち全体、もしくははある特定の場所を舞台とし、地域の活性化へとつながっています。今回は、「アートでつくるまちづくり」を通して、地域を元気にしよう」と活動している事例について、ご紹介します。

アートがもたらす異化作用

立命館大学准教授

浄土宗應典院主幹

山口洋典さん



▲「應典院コモンズフェスタ2010 <トランスパブリック>及び<詩の学校>」

ることもあつて、多くの人々の表現活動を通じて地域活性化をもたら

「アート」という言葉を聴いて、何か高尚なものと思う方も多いかもしれませんが。しかし、『アーツ・マネジメント』（川崎賢一ほか著・放送大学）という書物によれば、アートとはとても広い概念とされています。その広さは、そうした「アート」の担い手をどう呼ぶか、という視点からも明らかでしょう。実際、「芸術家」という響きと「アーティスト」、さらには「職人」と「クリエイター」では、単に漢字とカタカナの違いだけでなく、向き合っている作品の種類にも、その幅を見出せるのではないのでしょうか。

特に、最近では「コミュニティ・デザイン」という観念に注目が高まってい

そうとする実践が各地で起こっています。こうした取り組みにおけるアートは、これまでのアートの概念よりもさらに拡張されて捉えられていると言えるでしょう。具体的には、文字通り、市民の一人ひとりが手を動かした「手芸」にまで幅は広がり、地域の生活文化を大切にしていこうと、多彩な営み

が展開されています。

全国的に広がるアートを通じたまちづくりの火付け役とされているのが、二〇〇〇年から三年ごとに開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」です。これは、新潟県の新潟県十日町市と津南町に及ぶ約七百六十二平方kmの広大な土地を美術館に見立てて、世界各地から招かれた作家と、作家を受け入れる集落とが共創する、作品づくりと地域活性化の協働事業です。同地域での広がりだけでなく、二〇〇七年には徳島県での「国民文化祭」の上勝町会場が「里山の彩生」というテーマで、通常の「鑑賞型」から「参加型」へと様式の転換が図られた他、二〇一〇年には同じく三年ごとに開催される瀬戸内国際芸術祭が始まるなど、多方面に波及効果が出ています。

「アートという戦場」（フィルムアート社）という書物によれば、これらの作家と住民との協働によるプロジェクトは、「私たちが日常において、感覚的に自分の存在を確認する手段」となるため、「ソーシヤルアート」と呼ぶこと

ができるといいます。事実、「よそ者」としてのアーティストや鑑賞者が、その地域に「異物」を持ち込むことで、そのまちの人々は自らの地域の魅力を見つめ直すきっかけを得ることになります。ここにアートの「美化」ならぬ「異化」作用を見いだすことができます。筆者が身を置く大阪・天王寺区の浄土宗寺院「應典院」でも、この「異化」作用により、当たり前と思っている日常を「ちょっとだけずらす」そんな機会を多々生み出しています。

山口洋典さん●プロフィール

1975年静岡県磐田市出身。学生時代の震災ボランティアやCOP3でのNGO事務局の経験をもとに、きょうとNPOセンターの設立に参画。2006年より大阪・天王寺の浄土宗應典院にて、僧侶とNPOの事務局長の立場からお寺と社会の関係づくりを担う。2011年度より立命館大学准教授で、立命館災害復興支援室のチーフディレクター。2012年には大阪府・市の特別参与としてアーツカウンシルの制度設計等に取り組んだ。



交流



代表●澤村幸一郎(さわむら こういちろう)
 設立●2009年 会員●10名
 連絡先●高島市勝野1108-3
 TEL: 090-5014-1600
 FAX: 0740-36-1661
 E-mail: info@musubime.tv
 URL: http://www.musubime.tv

田舎暮らしの楽しさ 魅力を都市の人にも 地域の人にも伝えたい

「結びめ」は、田舎暮らしに魅力を感じる都市の人を過疎と高齢化が進む地域につなぐ移住・交流促進に取り組む団体です。都市の人に自然に寄り添う暮らしの魅力を伝え、地域の人にもその価値を再認識してもらいたいと考え、高島市を拠点に活動しています。



▲本格的な建築の経験ができるセルフビルド体験

移住を希望する人に対し、田舎暮らしの魅力である地域の伝統行事や集落を支えあう人のつながり、大切にされてきた森と農業と人の営みが循環する暮らしを伝えるプロジェクトが2009年に動き出し、「農山村と都市の結び、人と人の結び、風と土の結び」を目指して名づけられました。

高島市安曇川町に古民家を移設した、山里の暮らし交房「風結い」を拠点に建築の専門家から実践を通して空き家改修を学ぶ「セルフビルド体験 空き家再生塾」は、大阪などから通う参加者もいます。「ちまきづくり体験」「有機米の自給自足プロジェクト」「味噌づくり体験」など年間を通して、地元の人と都市の人が交流する機会を提供しています。



▲「風結い」前の田んぼで稲刈りをしています。

定期に開催する「風と土の交響」は、高島市をものづくりの拠点に選んだ約40名の出展者や、都市部等から集まったサポーターとともに、この地域だからできる暮らしを見てもらい、

その魅力を伝えたいと取組んでいるイベントです。

自身も高島への移住者である事務局の西川唱子さんは、「都市の人の感動が、地元の人喜びや笑顔になります。風の人(他所からの人)と土の人(地元の人)が直接会って、交流してもらうことを大切に、移住したい方と地域の人をつなぎたいと思っています。」と話してくれました。

(おうみネットサポーター 坂下靖子)

「人間は自然に内包される」 ～舞台はいまそこにある里山～

えちごつまり
 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ



▲イリヤ&エミリア・カバコフ 「棚田」 撮影：中村脩

「大地の芸術祭」は、越後妻有地域の里山を舞台に3年に1度開催される世界最大規模の国際芸術祭です。

アートを媒介として地域に内在するさまざまな価値を掘り起し、アートによる独特な地域づくりの手法は、「妻有方式」として大きな関心を呼んでいます。

「現代アート」の舞台は、廃校になった学校・棚田・空家・里山であり、アーティストと地元住民が作品を通じてもともと地域にある宝を発掘しています。

開催期間中は多くのボランティアと地元住民が参加し、開催期間以外も雪堀ボランティアや米づくりなどを通じて地域の人と外の人とのつながりが続いています。

連絡先●「大地の芸術祭の里」総合案内所

開催地：新潟県十日町市・津南町

TEL: 025-761-7767 HP: <http://www.echigo-tsumari.jp/>

「私たちの町には美術館がありません。 美しい砂浜が美術館です。」

砂浜美術館



▲「ひらひらします Tシャツアート展」

「Tシャツアート展」は、写真家北出博基氏が「写真をTシャツにプリントして砂浜で展示したい」というアイデアを高知のデザイナー梅原真氏に話し、当時の大方町役場職員に大方町の砂浜での開催を提案したことから始まり、企画実行グループの「砂浜美術館」がうまれました。

全国から公募したデザインをTシャツにプリントし、砂浜に洗濯物を干すように展示する「Tシャツアート展」、海岸の漂流物(燃やしてしまったらゴミ)に解説を加えて展示する「漂流物展」など開催し、毎年参加するリピーターも多数います。

「砂浜美術館の哲学」は、立派な観光施設などなくても、ありのままの自然資源を活かし振興を図ることが十分可能であることを私たちに教えてくれています。

連絡先● NPO 法人 NPO 砂浜美術館

高知県幡多郡黒潮町浮鞆 3573-5

TEL: 0880-43-4915 HP: <http://www.sunabi.com/>

現代アートとふれあえる空間

m-fat (モファ)



▲今年の「おてらハブン！」のフィナーレ、めくるめく紙芝居「キセキのぞうさん」+ モファ「カラダちんどん」

m-fat (モファ)は、守山市幸津川町にある日照山東光寺で、毎年ゴールデンウィーク中「守山野外美術展 おてらハブン！」を開催しているアーティスト集団です。

この活動は、野外美術イベントに興味を持っていたメンバーが、お互いに住んでいる守山でもこの活動を行いたいとの想いが重なり、2008年から始まりました。

大人には少し近寄りたいたい「現代アート」、しかし近所の子供達には物怖じせず近づいていき、アーティストと一緒に作品を作ります。今では準備段階から参加し、「自分達もハブン！を作ってる！」と言うほどに意識が変わってきました。子供達の目の輝きや参加者の反応を直に感じることで、毎年「ハブン！」の形も変わり続けています。

これからも、地域の人達がアーティストと日常的にふれあえるお寺を目指して活動されます。

メッセージ：今年の「ハブン！」は8月まで続きます。

まず遊びに来て下さい。

今後のイベント情報

続々・おてらハブン！ 7月20日(土)・21日(日)
おてらハブン！夏の大発表会 8月19日(月)～25日(日)

連絡先●TEL：090-2688-1125 (川本)
E-mail：info@m-fat.org HP：http://m-fat.org/

「竹燈籠」でまちづくりが広がる

NPO法人青山まちづくりネットワーク



▲砂場に飾られた竹燈籠

NPO法人青山まちづくりネットワークは、大津市青山学区で毎年開催される「青山夏祭り」の運営サポートを契機に設立され、夏祭りイベントの1つとして「竹燈籠ライトアップ」を行っています。多い時には3,000本の竹燈籠が飾られ、多くの来場者から「癒される、落ち着く」などの声があります。

この竹燈籠は、団体事業の1つで、青山にある牟礼山の整備・管理をしている「牟礼山森林クラブ」が、伐採竹を活用して約1か月かけて準備をしています。このクラブは、「子どもたちに安全で楽しく遊べる里山を残したい」という想いから「竹燈籠」を作っています。このことを通して、地域の団塊世代や高齢者の生きがいづくりとしてまちづくりが広がっています。

青山のシンボルである「竹灯籠」や「プロムナード青山フェスタ」など住民がまちを活気づけようと始めた手作り市など、この地域のまちづくりに欠かせないものになっています。

今後のイベント情報

第22回 青山夏祭り 日時：8月24日(土) 17:00～

連絡先●大津市青山5-13-6 青山まちづくり役場内
TEL：077-535-5257
HP：http://aoyama-network.com/index.html

「アート」でつくるまちづくり ● 支援情報

(公財)アサヒグループ芸術文化財団

<http://www.asahibeer.co.jp/csr/philanthoropy/ab-art/index.html>

アサヒビール株式会社創業100周年を記念して、1989年に設立されました。

時代に先駆ける新たな価値の創造を通して社会に寄与するため、芸術文化の振興を目的としています。

◇アートのお祭り「アサヒ・アート・フェスティバル」の開催

◇芸術活動を行うNPOへの助成

※2012年募集期間(参考):2012年10月1日(月)～11月1日(木)

文化・経済フォーラム 滋賀

<https://www.shiga-bunshin.or.jp/bunkakeizai/>

滋賀県の文化振興を目指し2011年に設立されました。毎年滋賀県内で、文化活動を通じて滋賀を明るく元気にしているなど、地域社会に特徴ある貢献を行っている団体または個人に対して「文化で滋賀を元気に！賞」を贈っています。

◇「2012文化で滋賀を元気に！賞」

募集締切(参考):2012年11月16日



代表●藤堂裕美(とうどう ひろみ)
設立●2002年 会員●38名
連絡先●東近江市平柳町1732番地1
TEL/FAX : 0749-45-1929
URL : http://www.geocities.jp/melody_kotou/

出会い・絆・感動ー 楽しいメロディーの 素敵なハーモニー



▲餃子作り

「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」は、障がい児・者の就労・余暇支援を主に行っているグループです。

今回、毎月行われる例会に参加させていただきました。この日の活動は、茶道と創作活動(陶芸、油絵)、そしてウォーキングでした。茶道では、Harmony(メロディーを支援している滋賀県立大学のボランティアグループ(会員20名程度))の学生が立ててくれたお点前をいただきました。創作活動では、油絵と陶芸のグループに分かれ、個性的な活動が展開しました。油絵は専門の指導者2人とHarmonyの学生がぴったり補助し、イチゴと笥の素材を参考にしながら、独創的な、大胆な色使い、形のモダンアートができました。陶芸も自分の思いのままに陶土を粒状にして積み上げたりして作っていました。作品は、当日の作品作りも支援してくれている陶芸家の方が焼き、保管されています。

このグループは、障がい児をもつ親とその先生の5人が発起人となり、子ども達が養護学校を卒業した後の新しい生活の場を自分達で作ろうとの熱い想いをベースに生まれました。その際、志を持って継続的にメロディーの活動を支援してもらえるボランティアがほしいと滋賀県立大学の学生達に発起人が直接訴えてHarmonyが誕生し、その後10年余の長きにわたり子ども達と共に成長し活動を続けています。このHarmonyの卒業生が保育士や特別支援学校の教師となり、更にメロディーの理事になるといった事例も発生し、絆の深さに感動しました。

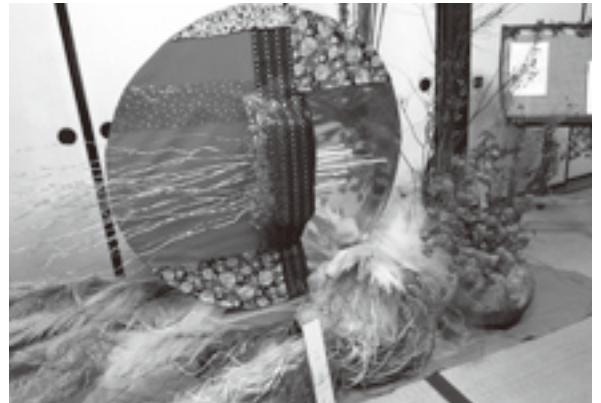
(おうみネットサポーター 岡崎一郎)



▲茶道

「住みづらさ」を「暮らしを楽しむ町」へ

NPO 法人芸術村IN余呉実行委員会



▲「余呉まるごと里山芸術村2012」にて展示された地元の三國佳未さんの作品

長浜市余呉町は滋賀県最北端に位置し、高齢化率約35%(3月時点)、多くの限界集落を有する超過疎地です。そんな町の町全体での活性化を目的に余呉を愛する町の人達が、2009年秋「芸術村IN余呉実行委員会」を立ち上げ、「町全体を芸術広場に」を合言葉に、住民主導の芸術イベント「芸術村IN余呉」を開催しています。

2009年当時、町の各地では小劇場「弥吉」「べんがら座」などユニークな文化活動が行われていましたが、来場者の確保とPRなどの情報発信が課題となっていました。そこで、実行委員会では事務局を設け、町の各地で行われているイベントの情報を、町内外へ広く一括で発信し、来場者増加につなげました。2011年からは各イベントと一緒に「余呉まるごと里山芸術村」を開催し、古民家や古寺での作品展、震災復興支援の音楽祭、余呉環境焼畑収穫祭等を行っています。

これからも文化活動を通して、「田舎という住みづらさ」を「暮らしを楽しむ町」にしていくために活動を続けられます。

連絡先●一般財団法人 湖北水源の郷づくり
長浜市余呉町中之郷1159番地
TEL : 0749-86-8037
URL : <http://art-yogo.com/>

「アート」は特別なものではありません。身近にある物をちょっとひと工夫加えただけでも、「アート」です。最近では、「アート」は身近な存在となり、滋賀県内でも古くからある神社での芸術祭など、各地で様々な「アート」でのまちづくりが少しずつ増えています。

まちの活性化を考える際に、方法の一つとして「アート」を考えてみませんか。視点を変えてみる、他所の人達と関わることで、まちへの見方が変わり、まちの魅力を見つめ直すきっかけになるのではないのでしょうか。

市民活動への期待

体験する活動への賛歌

私は会社で、社会貢献活動のひとつとしての次世代教育活動を担当しています。具体的には、地域の小中学校や公民館・市民センターへ出向いて、いわゆる「出張授業」を行っています。

こうした活動の現場ではいろいろ感じるのですが、そのひとつが「体験してみるの大切さ」です。最近「火育」というものに力を入れているのですが、よく耳にするのが「最近の子どもはマッチが擦れない」という言葉です。授業で聞いてみると、滋賀県ではそれほどでもないのですが、確かに都心部ではかなりの率になります。でも、本当に「マッチを擦れなくなってしまった」のでしょうか。それは「擦ったことがないだけ」のような気がします。危ないから触らせない、遠ざけてしまっているからではないかという気がします。遠ざけるのではなく、必要なことは「体験して、危ないことも含めて正しく理解する」ことが大切だという気がしてなりません。

市民活動を行う上でも、団体運営の財源確保を筆頭にいろいろな壁があるのが現実ですが、みなさんが取組んでおられる「正しく理解するための体験活動」に、「明るく、元気に、へこたれず」引続き邁進していただければ、という思いを強くする今日この頃です。



<参考>大阪ガスのエネルギー・環境教育
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/ed/index.html>

人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

大阪ガス株式会社
京滋リビング営業部滋賀コミュニティ室
室長 吉田 聡さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

近畿環境保全株式会社

草津市青地町196番地
TEL : 077-564-1502 FAX : 077-567-3767 HP : <http://www.kin-kan.co.jp/>

企業とNPOの協力は プラスとプラスで相乗効果

草津市にある近畿環境保全株式会社(以下、キンカン)は、環境配慮を重視した産業廃棄物処理・リサイクル業等を行い、その社内NPOである「循環型社会創造研究所えこら」(以下、えこら)の活動を支援しています。「えこら」は、「ゴミはゴミじゃない」という意識作りのために、主に資源物集めとリサイクル収益の一部を環境保全に寄付している団体です。

キンカン代表取締役社長 西村忠浩さんと「キンカン」に勤めながら「えこら」の事務局スタッフとしても活躍されている藤田アニーさんのお二人にお話を伺いました。

2009年、藤田さんは西村さんに環境活動をするNPOを独立してやりたいと相談をされました。藤田さんは環境活動をするためのスキルとローカルな目線を持ち合わせているので、会社として



▲スーパー入口での資源回収活動

も一緒に何かできるのではないかと思います。西村さんも発起人に加わり「えこら」の活動が始まりました。

「キンカン」の支援内容は、「資源寄付プログラム」の資源ごみ回

収作業代行、勤務時間内での「えこら」活動、集めた資源の売却益の一部の寄付です。資源ごみ回収作業代行は、既存業務内で行われており負担は少ないとのこと。また毎年各イベントへの参加時には大学生ボランティアの参加があり、2012年度は6名でした。

「キンカン」は、回収代行とリサイクルを行うことで会社のCSR活動になり、新しいお客さんとの出会いの場にもなります。「えこら」にとっては、回収を代行してもらうことで集める負担が減り、売却の一部は活動資金として使用できるという一挙両得となっています。また、藤田さんはハンガリー出身ということもあり、社外への広報活動では出会う方みなさんにすぐに覚えてもらえ、「キンカン」・「えこら」とも外部との人脈・ネットワークが出来ています。

西村さんは、「今後、業種の異なる企業が「えこら」をシェアする形で社会貢献活動を行う一つの運動になるよう働きかけていきたい。」と締めくくられました。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 牧野利花)



▲今回お話を伺った西村社長(右)と藤田さん(左)

スポーツ



理事長●大原克彦(おおはら かつひこ)
 設立●2005年 スタッフ●48名
 会員●286名(利用会員)
 連絡先●甲賀市甲賀町相模124-7
 TEL: 0748-88-2190
 E-Mail: info@sasuke-club.jp
 HP: http://www.sasuke-club.jp/

スポーツと文化を通して 子ども達の心と体を 育みたい



▲サタージュニア教室「忍者に変身」

「こうかサスケくらぶ」は甲賀市にある総合型地域スポーツクラブです。2002年に学校週5日制となり、子ども達の居場所づくりのため旧甲賀町の体育指導委員会が開いた

クラブが始まりで、2005年2月に設立されました。スポーツ少年団のように競い合うスポーツではなく、いつでも・どこでも・だれでもが楽しめるスポーツを目指し、お祭りや地域のイベントなどにも積極的に参加して活動の輪を広げる地域密着型の総合的なクラブに発展してきました。

現在活動中の教室はテニス・ピラティスなど13種目。会員は幼児から70歳代まで286名で、学校関係者やスポーツ指導員など有資格者、ボランティア等48名のスタッフで運営に当たっています。年会費を払うと、くらぶ主催の活動参加費は無料のうえ、市内の10スポーツクラブの活動にも千円で参加できるので、小学生の時から地区や学区を超えたつながりが生まれ地域全体で子ども達を育てています。また、甲賀町の人口の35%が60歳以上なので、高齢者の居場所づくりに指導員の特技を生かした教室を開催しています。

ただ、「今年度は大きな補助金がなくなり資金集めに苦労する」と話すのは、理事長の大原克彦さん。企業や財団



▲「2012 富士山に登ろう」

から寄付金を集めるために、意識が高く価値ある活動をどのようにPRするかが今後の課題です。この課題への取り組みの第一歩として、現在認定NPO法人を視野に入れ法人化の準備をしています。

「こうかサスケくらぶ」の活動が次世代にも引き継がれるように、大原さんたちの愛情ある活動はまだ進化していきます。

(おうみネットサポーター 梶山まき)

NPOのIT活用術!

NPO法人しがNPOセンター
<http://shiganpo922.shiga-saku.net/>

活動や考え方を広く知ってもらい、
新鮮な情報をタイムリーに発信したい



滋賀で活動している市民活動団体やNPO、地域コミュニティを支援する活動に取り組んでいる「しがNPOセンター」。支援活動で大切なのは、その活動や考え方について広く知ってもらうこと。そのため印刷代や郵送料をかけずに広く一般に情報を提供できるインターネットを活用し、ブログ形式のサイト、ツイッターやフェイスブックといったSNSを使った情報発信に取り組んでおられます。その利点は「メディアを介さないの理解されやすい」こと、そして「コメントやアクセス数などで反応がダイレクトに伝わる」こと。特にツイッターは手短かにリアルタイムな情報発信、そしてフェイスブックでは「いいね!」を押してもらって閲覧者に情報を広げてもらい、記事の閲覧状況やニーズが把握できるとのこと。双方向性を生かした情報発信で、支援と活動の輪を広げています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

未来塾で培った使命
「つなぎ職人」—学生・地域活動家・経済人の綱渡り人生—

9期生 迫間 勇人

グループ：近江むかし発見隊

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

未来塾は私にとって県内の「人財」とのつながりをいただいた場所と言えるかもしれません。当時私は県立大学の学生であり、地域活動を通して更なる人脈を求めています。きっかけは当時関わっていた「面白い」方々がことごとく未来塾の卒業生であったこと。私もその場に身を置けば更なるつながりができるのでは?と期待しました。実際そのつながりは今なお私の「宝物」です。そこで気付いたことは「つながり」の重要性。今までいただいたつながりに対する恩返しは、自分がつなぎ役に徹することだと感じました。



現在はその使命を胸に商工会議所という立場で地元経済人とそれまで関係の深かった大学や地域をつなぐ役目に没頭しています。最近はその天職と思うようになり、小さな成果として、彦根で町屋バンクを立ち上げることができました。地域で活動していていつも悩みの種だったのは商機や資金繰り等の経済的感覚でした。それを求めて現在に至りますが、経営者トップとお仕事をさせていただいており、これほど生きた勉強になることはありません。おそらく現在地域で活動する方々も同じ悩みを抱えているのではないのでしょうか。そういった方々と経済人をつなぐことはコミュニティビジネスを生み出し、滋賀県が世界に誇れる面白い場所になる可能性を示せるのではないかと考えています。

未来塾にいただいたご縁、今なお私の中で沸々と息づいています。

寄付

**未来ファンドおうみ
「おうみNPO活動基金」へ
ご寄付ありがとうございます。**

5月10日、オムロン株式会社草津事業所様から4回目のご寄付として168,769円をいただきました。エコ活動とボランティア活動を併せた「エコボランティア」に1年間社員一人ひとりが取り組まれ、ポイント化したその成果にあわせて会社も社会貢献活動へ寄付する取り組みをされています。

今回、草津事業所と山鹿事業所に従事する1,260名が昨年活動したエコボランティア活動のポイントに相当する額をご寄付いただいたものです。



お知らせ

**源泉所得税の税率が
変わりました!**

平成25年1月1日以降の所得については、従来の源泉所得税に復興特別税を併せて徴収することになりました。

報酬にかかる源泉所得税率は10%から10.21%に変わりました。

詳しくは国税庁HPをご覧ください。

<http://www.nta.go.jp/tetsuzuki/shinsei/annai/gensen/fukko/pdf/02.pdf>

新着

**ブックレット32号・33号を
発刊しました。**

◇ブックレット32号

淡海ネットワークセンター 15周年記念講演の講演記録とびわ湖フォーラム2013～「新しい公共」で次代を拓く～分科会4「地域で生きのこる組織力」の講演記録をまとめました。「NPOの知恵と力と責任～これからの地域のニーズに応えるために～」
著者：山岡義典、水谷綾

◇ブックレット33号

「地域プロデューサーの時代～おうみ未来塾がめざしてきたもの～」
当財団の人材育成事業であるおうみ未来塾の北村裕明塾長による「地域プロデューサーの時代～おうみ未来塾がめざしてきたもの～」を発行しました。
著者：北村裕明(滋賀大学理事・副学長)
※ご希望の方は当センターまでご連絡ください。

講座

**第2回 協働サロン2013 学習会
寄付・遺贈の受け入れについ
て考えよう**

◇日時：8月9日(金)18:30～20:30
◇場所：県民交流センター 206会議室
◇講師：早坂 毅 氏(税理士法人早坂会計 代表社員 所長)
※詳細につきましては当センターHPに掲載いたします。

講座

**活動計算書
ミニ講座のご案内**

活動計算書についての講座を毎月第3金曜日に開催します。活動計算書についてハンドブックをもとにわかりやすく説明いたします。会計初心者の方も大歓迎！ぜひご参加下さい！

◇日時：7月19日(金)、8月23日(金)、9月20日(金) 各日 14:30～15:30
◇場所：淡海ネットワークセンターふらっとルーム
◇参加費：無料
◇内容：活動計算書の説明など
◇お申込み：開催日の前日までに、電話・メール・FAX等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。

講座

**NPOミニ講座・NPO会計
はじめの一步講座のご案内**

NPOの設立・運営・会計についての各講座を毎月第2金曜日に開催します。NPOミニ講座は、NPO法人の設立・運営について、またNPO会計はじめの一步講座は、NPOの会計を初歩から説明します。ぜひご参加ください。

◇日時：7月12日(金)、8月9日(金)、9月13日(金) 各日 NPOミニ講座
13:30～14:30
NPO会計はじめの一步講座
14:30～15:30

◇場所：淡海ネットワークセンターふらっとルーム
◇参加費：無料
◇内容：ガイダンス、制度、手続きの説明など(参加される方のご希望に合わせて)質疑・相談など
◇お申込み：開催日の前日までに、電話・メール・FAX等により、お名前と参加者数を淡海ネットワークセンターまでお知らせください。

編集後記

高島市は過疎地域もありますが、農と森林と湖の風景がバランスを保ち、移住を希望する人も多い地域です。地域の人々や伝統と移住を希望する人を結ぶ活動は、地域にとっても移住希望者にとっても重要です。たくさんの方の結びを贈りていただきたいと思います。(おうみネットサポーター 坂下靖子)

ご縁をいただいて「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」をこの4月例会で取材させていただきました。

一期一会、仏かねて知ろしめて、なんて言葉を思い起こしました。メロディーさんのパートナー「滋賀県立大学・メロディー支援のボランティアグループ・ハーモニー」の会長、副会長、との出会い。一期一会の感激の取材でした。(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

地域の子供が減少する中、ボランティアで子供たちの活動を企画・運営し、良き相談相手としても頼りにされているスタッフの方たちの、子供への愛情の深さと教育への意識の高さに感動をおぼえました。また、他のクラブとの横のつながりが深いことにも驚きました。今後も、楽しく仲間の輪が広がることを大いに期待しています。

(おうみネットサポーター 梶山まき)



●2013 夏号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間/ 9:00～17:00
- 休館日/月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さきや、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

コテージ、キャンプ、森林交流センター
バトラスレック、テニス、子どもミュージアム...
大自然に囲まれて、楽しくのびのび過ごしませんか?
家族や友人との読書やパーティをはじめ、企業研修の場としてもご利用いただけます。

ウディパル余呉 TEL 0749-86-4145
URL <http://woodypal.jp>
余呉町の自然は、身体と心も癒す癒しの宝庫です。

芽が育つ。個性が伸びる。

一人ひとりの個性に合わせた 個別指導・家庭教師・グループ指導
LD・ADHD・広汎性発達障害が、カウンセリングやソーシャルスキルによって、子どもたちの確かな学力や社会性を育みます。
【対象：幼児・小学生・中学生・高校生】

■教育相談受付中(初回無料)■
学習や発達、いじめ、進路、不登校などお子様に関するお悩みがありましたら、お気軽にご相談ください。専門の相談員がご相談に応じます。(※事前予約制)お電話または counseling@at-school.jp

株式会社 アットスクール
●草津市大浜1-10-20 藤井ビル2F(草津駅より徒歩6分) TEL 077-565-7937
詳しくはホームページをご覧ください。アットスクール



この印刷物は再生紙を使用し、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを含まない植物油インキを使用しています。